

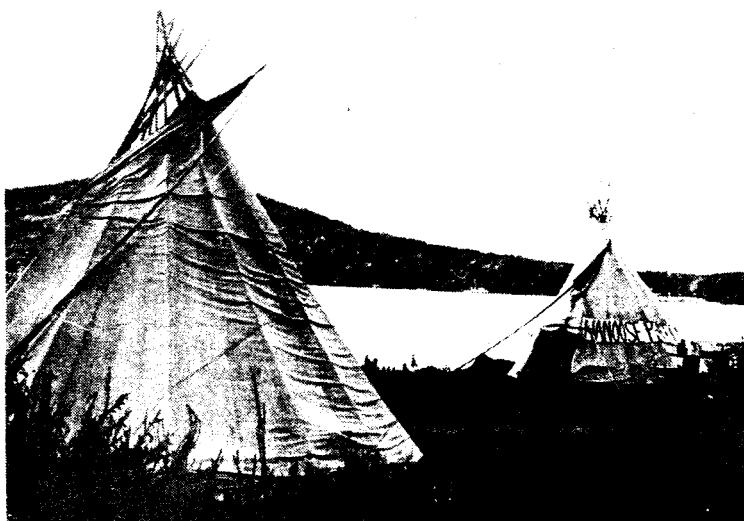
月刊トマホーク通信

No. 17
1987. 3. 20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095

INTERNATIONAL DISARM THE SEAS WEEKEND

★5/29
~31



海の軍備撤廃のための国際共同行動
いきかで、いたる所で…

Here, There and Everywhere

ナヌースのティピー

カナダ西海岸のナヌース湾。ここには米海軍の潜水艦の訓練基地
があって魚雷やミサイルのテストがくりかえされている。平和運動
の人々は海辺にこんなティピー（アメリカ先住民の円錐形のテント）
を立てて、監視と抗議を続けた。その後、ティピーは強制撤去され
てしまったけれどジャンク（小舟）を浮べたり、今では小さな家ま
で持つて人々の抗議は続いている。

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員（月間会費）
団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）
団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員
年間 2000円

あなたも仲間に！

アケハマハタニイモウスルシテ

三月六日夜、アメリカの空母艦載機の夜間演習基地に島ぐるみで反対している三宅島にむかって、アクション・ボートが出航。赤ん坊からおじいちゃん、おばあちゃんまで三三〇余の参加者と、反対する会との交流会が開かれた。厚木基地の代替候補のひとつである下総基地周辺の住民が「もう三宅島に決まつた、と反対運動も縮小ぎみ」と発言。三浦会長は「よそで要らないものは、三宅島でもいいらない」ときっぱり。

港をあらう波に帰りの船は欠航というハプニングも、北海道から大阪まで各地からの参加者には交流のチャンス。見るものを圧する噴火跡、雄山登山、岬めぐり…三宅島の縁と自然を楽しむことになった。島をめぐる立看板のひとつ「三宅島の自然を子孫にのこそう！」を肌でもって実感する時でもあった。

いろいろな思いを、三宅島につないで帰ったた三三〇人。小さいが、そのひとつひとつの声が全国に響く」となるだろう。

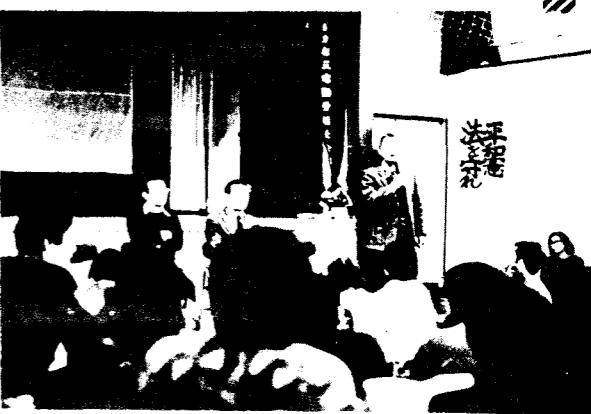


三核も原発もなべ大洋を

三月一日、東京で「核も原発もない太平洋を！」三・一東京集会が開かれた。呼びかけは日本カトリック正義と平和協議会、婦人民主クラブ、ブルトニウム研究会、反核パシフィックセンター東京の四者。約三百人が参加した。

映の後、軍事評論家の前田哲男さん、画家の丸木俊さんなどが発言にたつた。前田さんは「米核戦略の一端をになう日本が、太平洋民衆に押しつける核と軍事と原爆政策に対し、日本の民衆がその政策をただし、民衆自身が真の海洋文化と自由を認識すべき」と訴えた。

反核パシフィックセンター東京からは、ベラウ自由連合協定をめぐる最近の動向につい



て、また沖縄研究会からは、原収容委の米軍用地十年強制使用決定についての報告がされた。

のスリーマイル島原発事故八周年、四・二六 チエルノブイリ事故一周年行動が呼びかけら
れた。

「非核コード」(原)が出来た

「三十四基もの原発を動かし、米国の核軍拡に歩調を合わせる日本政府。その日本に住むものとして、私たちは、海にも大地にも核を捨てさせない、原発をとめ脱原発を目指す、そして核も原発もない太平洋をつくりだすために力を合わせたい」。

(一月)六日、横浜で第三回「いのちとくらしを守る県民の集い」が開催され、「非核コード(案)」が発表された。この集会を主催したのは県下の労働組合、市民住民団体で作る「県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会(通称「いのくら」)」と「87国民春闘奈川共闘会議」。今回は「非核県宣言をよりたしかなものにするために」をテーマに開催された。

「いのくら」では昨年の秋以来、「基地分科会」の中に研究会が置かれ、コード作りの作業が続けられてきた。これには非核市民宣言の会、生活クラブ生協、「全国運動」の梅林さんも加わり精力的に検討を進めた。

「コード」を本当に有効に使う」とのできる様な人々の熱気を作り出したいと思う。

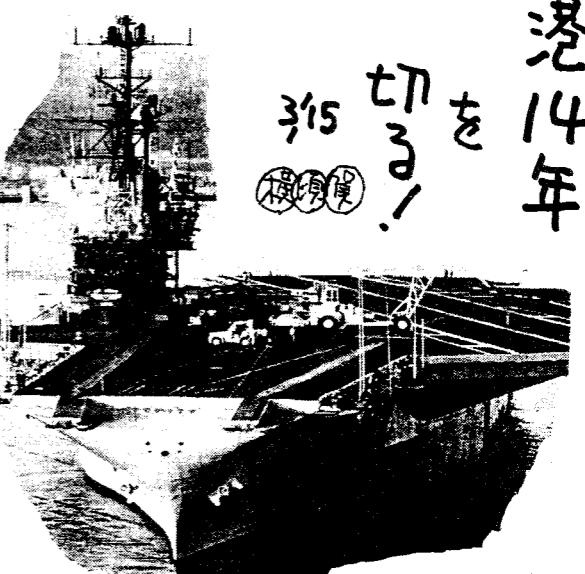
各地 // ハーネー母港 14 年

三月十五日、横須賀で「ミッドウェー母港十四年を切る!」と題したシンポジウムが開かれた。一九七三年十月の母港化から十四年、米空母ミッドウェーは昨年八ヶ月に及ぶ大改装工事を施され、二一世紀初頭まで使用可能とされている。ミッドウェー母港化は横須賀に何をもたらしたのか、ミッドウェーはいまどのような役割を果たしているのか。こうしたこと改めて問い合わせをもつて、このシンポジウムは企画された。

ミッドウェーの新艦載機のスライドが映しだされた後、四つの報告が行われた。

最初に反軍調査協議会の鈴木しげきさんから、母港化以後のミッドウェーの動きが細かく紹介される。ベトナム、朝鮮、西太平洋からインド洋へ。ミッドウェーの航跡は、アジアの民衆に銃口をつきつけるアメリカ軍の姿を浮き彫りにするものだ。

平和事務所の進藤さんは、改装後のミッドウェーの軍事的能力、役割を中心としたレポートが、非核市民宣言運動の鈴木良さんからは、ミッドウェーの改修工事とアスベス投棄問題が、また広沢さんからは、かつて



の反戦米兵運動についての報告がそれぞれ提起された。

討論の中では、住友重工の首切り合理化と米艦船の修理能力を維持することとの関連、矛盾など興味深い問題が話し合われた。

「基地の町」の日常の中で、ミッドウェー母港の重みを不斷に意識化していく作業は大変なことだが、あらためてこの現実に喰らいついていくことの必要性を実感させる集会であった。

III 短 III 信 III

【横浜】 上瀬谷基地はいらないウドの会は五月一九あるいは三〇日から三一日にかけて「カミセヤ→ヨコスカ・ピースウォーカー(仮称)」を計画している。上瀬谷通信基地から深谷通信基地、逗子へ横須賀まで「通信基地反対」「核艦船入港拒否」「スパイ防止法反対」を訴えて歩く。「国際共同行動」にも連なる行動もある。いつしょに歩こう!

(連絡先〇四五三三六三一一一一内線四二五 富永氣付ウドの会)

沖縄軍用地20年強制使用反対

沖縄には「命どう宝」(命こそ宝)という反戦の思想がある。そして自らの土地を戦争のために、人殺しのためには使わせない、軍用地提供の契約を拒否している「反戦地主」がいる。

沖縄一坪反戦地主会は、基地の中に握られている反戦地主の土地を取りもどし、「生活と生産の場へ」変えてゆこうという運動です。沖縄軍用地の20年強制使用一安保体制の固定化に反対して、多くのみなさんの反戦地主への連帯を訴えます。

◆ 東京・大阪・福岡・札幌・ばかりの各地
◆ かうしにひよこしまよました。
◆ ふけり、主張、叫びかけ、待つて
◆ 連絡先 沖縄一坪反戦地主会関東ブロック
東京都北区上十条3-29-1 大井マンション 03-395-1575 (本拠地)

海は人間を結んだ

太平洋運動コーディネイティング会議

(1・31→2・5)

梅林宏道(反トマ全国運動代表)



クレランは一日遅れて到着することになった。

反トマ運動からは吳から湯浅一郎さんが到着した。この日は明日からの会議の議題と日程の最終調整を行い、その後、個人史の紹介に質疑応答をまじえながら相当時間を費やした。太平洋を隔てて集まつた文化の異なる人々が、よく知合い、共通の運動戦略を語り合う前提となる作業であった。

◆ 1月31日 この日までに太平洋運動のコーディネイティング会議(構成員7人)のほぼ全員が東京に到着した。いつものことながら、忙しい日程をやりくりして実現する活動家たちの国際会議。安い切符を手にいれること、せっかくの旅の日程ができる限り有効に使うこと、緊張に満ちたシャキッと背筋がのびるような集合ぶりだった。そのくせみんな優しく、和やかである。国際コーディネイターであるネルソン・フォスター(ハワイ)の人柄がこの気風を生み出している。2月2日に新憲法の国民投票をひかえたフィリピンのエルモ・マナバットは、二日前にやっと来日の最終決断を下したという。カナダのフィル・エスモンドは、リュックを背負い、太平洋の島々を巡って出席。直前にパプア・ニューギニアを訪問したオーストラリアのニック・マ

田奉仕園で行われた「海の軍備撤廃を!太平洋運動」のコーディネイティング会議。その中間にオープン・フォーラムとして開催された反核国際シンポジウム「人間の鎖は太平より大きい」。そして一息つくまもなく、二月一日から二月二十五日までカナダ西海岸での講演と交流の旅。その間、一月二三日から五日の週末には、バンクーバーで「非核独立太平洋ネットワーク(カナダ)」の年次会議に参加。熱気と興奮につつまれて一ヶ月を駆抜けた感じだった。日本の軍拡と反核・反基地運動を日本を離れて太平洋から見直す貴重な一ヶ月でもあった。限られた紙数でとりあえずカナダ旅行の部分は別の機会に譲らざるをえない。



ネルソン・フォスター

◆ 1月31日 この日までに太平洋運動のコーディネイティング会議(構成員7人)のほぼ全員が東京に到着した。いつものことながら、忙しい日程をやりくりして実現する活動家たちの国際会議。安い切符を手にいれること、せっかくの旅の日程ができる限り有効に使うこと、緊張に満ちたシャキッと背筋がのびるような集合ぶりだった。そのくせみんな優しく、和やかである。国際コーディネイターであるネルソン・フォスター(ハワイ)の人柄がこの気風を生み出している。2月2日に新憲法の国民投票をひかえたフィリピンのエルモ・マナバットは、二日前にやっと来日の最終決断を下したという。カナダのフィル・エスモンドは、リュックを背負い、太平洋の島々を巡って出席。直前にパプア・ニューギニアを訪問したオーストラリアのニック・マ



と少數先住民族マオリ族への融資をめぐるス、
キヤンダルがCIAによりしかれ社会不安を生みつてあること、南太平洋の島々では核や軍事に関する情報が乏しく、まず何よりも情報についての国際的な支援が必要であること、などの報告が印象に残った。

◆2月1日 この日のシンポジウムの概要是前号の反トマ通信に報告された。とかく権威主義的な高さを感じさせがちな国際会議のあり方を克服しようと準備されたシンボである。平和事務所の山下史さんが、「みんなが同じ目の高さをもっている感じがとても良かつた」と一人の参加者の感想を伝えてくれたのが嬉しかった。内容的には、アメリカ国内で海軍の大増強計画の中で進められている母港分散計画が多くの港で抵抗運動に会い挫折を強いられていること、今年九月に予定されるニュージーランドの国政選挙で、核艦船拒否を貫くロング労働党政権を追落そう



ニック・マクレラン（オーストラリア：非核独立太平洋運動）

◆2月3日 議題は「海の軍備撤廃を！－太平洋運動と他の国際運動との関連」、「各国の運動状況とくに太平洋運動がどのように役立っているか」、「太平洋運動の運営についての評価」。

◆2月4日 議題は「運営についての役割分担」（ここでは、日本がコーディネイティング会議の書記局を分担すること、引続き梅林が議長をつとめる）こと、を受けた）。この日の午後は自由時間で、オーストラリア、ニュージーランド、フィジー、カナダの代表は横須賀基地を見学した。夜には、いよいよ「87年以降の運動戦略」協議を開始。



ジュディス・デナーロ（フィジー：フィジー反核グループ）

◆2月2日 この日から本格的な合宿会議が始まった。一段ベッドが四台ある部屋に泊まりこみ、同じ部屋にあるテーブルを囲んで会議。休みを充分とりながら会議をすすめようと申し合せがあつたが、会議に熱中するとそうはゆかなかつた。午前9時から夜の11時頃まで会議は続いた。

午前中はあらかじめ準備しておいた国際電話会議。ワシントンからウイリアム・アーキンが太平洋の全体状況認識を電話で報告。スピーカー・ホーンを通して質疑応答した。ウイリアム・アーキンの報告は現在テープ起こしを依頼しているが「日本のアメリカ戦略への参画の内部情報が不足している」という指摘が印象的だった。また、クリンビースガーラードがCIAによりしかれ社会不安を生みつてあること、南太平洋の島々では核や軍事に関する情報が乏しく、まず何よりも情報についての国際的な支援が必要であること、などの報告が印象に残った。

その後の議題は、「一九八六年の太平洋運動の評価」「運動をとりまく状況の変化」（ラロトンガ条約、太平洋の冷戦構造、日本の軍事化、東のNATO＝日米韓一体化、トライデントII、ソ連の海洋発射巡航ミサイル、SDI関連など）

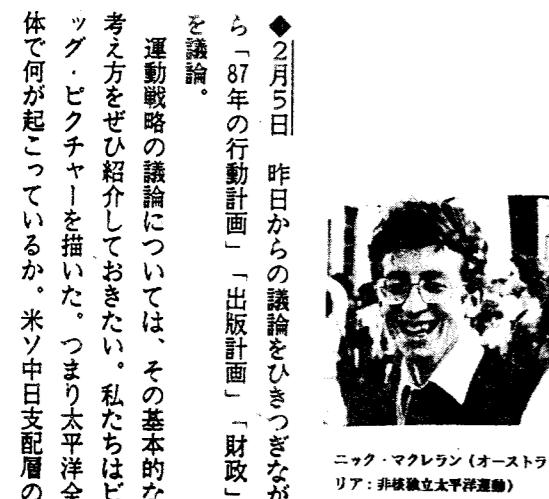


リニー・ウェストラ（ニュージーランド：平和をめざすキリスト者前議長）

◆2月5日 昨日からの議論をひきつぎながら「87年の行動計画」「出版計画」「財政」を議論。運動戦略の議論については、その基本的な考え方をぜひ紹介しておきたい。私たちはビッグ・ピクチャードを描いた。つまり太平洋全体で何が起こっているか。米ソ中日支配層の

模索は続いている。しかし、この立場に立ち切つて議論が開始されたことの意義はとても大きいと思う。

議論は、全体として必要なことは何か、それぞの国が現在最も必要としている支援は



ビル・ウェストラ（ニュージーランド：平和をめざすキリスト者前議長）

政治的連関について意見をかわした。しかし、その結果、各國で出現している状況は多様である。それぞれの国の政治文脈と密接に絡んでおり、太平洋の問題がそのまま姿を現すわけではない。その上、運動戦略を論ずる時には各國の運動の歴史的経緯や運動構造抜きに戦略論議をしても空論になるだろう。また一方で、一般的な連帯の確認やエールの交換の国際連帯の時代はすぎた。太平洋運動の協力がより強力な役割をはたす道は何か。この課題に挑戦するために私たちは集中合宿を行つた。とりあえず確認できたことは各國の運動でできるだけ立脚した戦略を立てることであつた。

食事時間に早稲田界隈を安くてうまい食堂を見付けて歩き回った。節分の豆まきをした。面白い話はいろいろあるが紙面がない。会議を終えて、何か新しい仕事をやり終えたという充足感があつた。本当は、何か新しいことが始まつたのだ。

ミニスクラップ情報

87.3.19「朝日」「時事新報」より

「核の影」漂う大演習

C141が緊急着陸? 消防車が滑走路へ急行
—米軍横田基地わざで

自衛隊機も次々

核司令機飛来 弾薬庫に危険 No.1 表示

横田基地緊迫

米韓チームスピリット'87、今月下旬から1ヶ月

する意味のようなものが、いくらかでも私の問題意識にしみこんだとすれば、それが最大の成果だったかもしれない。異としても各国の運動への怒りが直接的なものになつたこと

印象に残つたことをいくつかふれてみると第一は、初めて出会つたメンバーが多く、各國の反核運動の状況を、かなり系統的に紹介しあうセッショニンがじつくり持たれたことである。それの国の事情を、運動面での悩みも含めて、たっぷり聞くことができたことが収穫であった。

二月二日午前中は、国際電話を使って、電話での会議がウイリアム・アーキン（ワシン

トン）、オーエン・ウイルクス（ニュージーランド）両氏との間でもたれた。太平洋運動の問題意識にひきつけて、このような形で重い会議に詰めることになった。当初は、国際シンポジウムだけ出ようと思っていたが、あにはからんや、それは付録で、運営会議の事務的な仕事も手伝うことになり、結局ずっと付き合つてしまつた。日頃英語の世界と直接何かわりをもたないため、英語同士でペラペラやられる、聞きとることだけで本当に疲れはて、議論の何割を理解できたか、全く心もとない状態だった。

印象に残つたことをいくつかふれてみると第一は、初めて出会つたメンバーが多く、各國の反核運動の状況を、かなり系統的に紹介しあうセッショニンがじつくり持たれたことである。それの国の事情を、運動面での悩みも含めて、たっぷり聞くことができたことが収穫であった。

一週間ほど前、吳の海上自衛隊基地をリニ一氏（ニュージーランド）と見たときのこと

を思いだしていた。一月二十七日～二十八日、広島を是非訪れたいという彼の要望で平和公園を案内し、広島県内の吳という町に昨年メリルがきたことを是非知つてほしいと、吳に来てもらつたのである。その際、彼を吳の自衛隊基地へ案内したのである。彼は開口一番、「ここにいるだけでニュージーランド海軍の軍艦より多いわ！」。私は「え？」と思った。その日は五、六隻がいただけで、いつもより

も、今後への大きな財産になるだろうと思う。

ニュージーランドの秋の総選挙に向け、日本からニュージーランドのマスクミに對し、非核政策の支持と継続を求める手紙を出す」

とをリニ一氏と約束した。そうした具体的な

かわりを通して、五月の共同行動だけではない実のある連携をとつていけるようにしたいと思つてゐる。

ともかく疲れたが、とてもいい経験だった。

（トマホークの配備を許すな吳市民の会）

少ないなと思っていたので、彼の言葉に一瞬驚いた。そして身近にある基地の大きさを、外から来た人の第一印象を通して思い知らされたことがあるんだなとつくづく思った。ジンディス（フィジーの）が横須賀を見たときの感想もほとんど同様のものだった。

也为四に運動家たちの好奇心の旺盛さ、率直

さが印象的だった。食事をどうするか一つに

しても、ああでもない、こうでもないで大変

な騒ぎなのだ。

ともかく疲れたが、とてもいい経験だった。

各国とも異なった事情の中で運動は展開して

いる。それは当然のことだが、運動を最前線で担う活動家同士が、相互に悩みを出し合い、理解しあう。そこを出発点として、太平洋で

相互に何ができるか、互いにどう協力しあえるかを、率直に、たっぷり時間をかけて議論したことは非常に大事なことだった。過去の運動で、こうした議論がもたれてきたのかどうか私は知らないが、今回の会議は、多分初めてではないにしても、相当まれな内容だったのではないかと思う。運動のネットワークづくりという時の内実が少しずつ実現しているかを、率直に、たっぷり時間をかけて議論したことは非常に大事なことだった。過去の運動で、こうした議論がもたれてきたのかどうか私は知らないが、今回の会議は、多分初めてではないにしても、相当まれな内容だったのではないかと思う。運動のネットワークづくり

で、この最初のチームスピリット、つまり横須賀が開幕が出来た。この新編一ヶ月の会議は、これまでに

運動で、こうした議論がもたれてきたのかどうか私は知らないが、今回の会議は、多分初めてではないにしても、相当まれな内容だったのではないかと思う。運動のネットワークづくり

海外消息



88年には

ノースウェスト・ケープ
をとりもどそう

オーストラリアPNDのリーフレットから

●ノースウェストケープ基地の何が問題か?

この基地は一九六一年にメンジー政権によつて告知され六七年に供用開始されました。

この基地は一九六一年にメンジー政権によつて告知され六七年に供用開始されました。

答えは簡単。核戦争の引金になりかねない命令が間違いなくノースウェストケープ基地を経由して伝えられるだろうから。私たちは、米国の核戦争準備の共犯者にされている。これは同時にノースウェストケープ基地が第一の攻撃目標になることを意味しているのです。おまけに、この基地は軍備管理のために何の役にもたつていないのであります。

●ノースウェストケープ基地とは何か?

ノースウェストケープ基地は西オーストラリア、エキスマウスの近くにある米国の通信基地で南西太平洋とインド洋の原子力潜水艦や水上艦に命令を伝える役割を持っています。

●ノースウェストケープ基地の役割は?

この基地は通信衛星の地上基地からうけとった情報をVLF(超長波)やHF(短波)で送信します。VLFは潜水艦向け、HFは水上艦向けです。
VLF送信施設は攻撃目標の指示をふくむメッセージや命令を潜行中の核ミサイル搭載潜水艦に伝達するために使われています。しかし一九八一年以降はその能力は維持しているもののこの目的では使われていません。そのかわりに今では、米国の攻撃型原子力潜水艦とオーストラリア海軍の潜水艦にむけた送信を行っています。西海岸にはこれだけの周波数範囲をカバーするVLF施設はないの

です。

一方、HF送信施設は、核搭載の水上艦へのメッセージを送り出しています。これらの水上艦や原子力潜水艦はフリーマントルなど西海岸の港に入港しています。

オーストラリアもこの基地を使っています。オーストラリアはVLFチャンネルの一つを使うことを許されていますが、同盟国がより重要な目的のために使っているときには使えません。この基地の副指令官はオーストラリアの将校ですが、米国の指令官が不在のときの指揮権は彼にはありません。最も下級の米国の将校さえ彼より上の指揮権を持つているのです。

このような特権のためにオーストラリアは年間100万ドルを支出しているのです。そして、賃貸料はタダ(ー)…最初に名ばかりの地代を払つたきり。賃貸料はオーストラリ/政府が共同使用施設に格付けしている基地はどうでも払われていないのです。

私たちは、ノースウェストケープ基地は完全にオーストラリアの管理下におかれオーストラリアの防衛のために使われるべきだと確信しています。…核戦争のためなどではなく。

●私たちの選択肢は?

ノースウェストケープ基地は少なくともペントAGONの戦略家たちの頭の中では限定核戦争のシナリオに組込まれています。一九八六年九月、ペントAGONのスポーツマンは、この通信施設を核戦争のときの電磁波による破壊に備えて強化する計画があることを認めました。

ケープ・クルーセーダーは、西オーストラリアが第三次世界大戦のためのミサイル発射台にされることを憂える多くの人々一人一人です。何千人のクルーセーダーが力を合せればノースウェストケープのような基地を撤去して、オーストラリアへの核艦船の入港を止めることができます。オーストラリアと核戦争の繋がりを断切る事ができるのです。

オーストラリアはノースウェストケープ基地に関して25年の賃与協定を米国との間に結んでいます。しかし、

一九八七年一二月二二日

一日の時点でおースト



Are you a Cape Crusader?

**TAKE
BACK THE
CAPE IN '88**

● P.N.D.は何をしておられるのか?

P.N.D.はオーストラリアの人々にこの基地の役割と核艦船寄港の危険性を広く伝えるためのキャンペーンを進めています。

私達のもうひとつ課題は、連邦政府に対して、核艦船入港を拒否し、八七年一二月三日にノースウェストケープ基地貸与協定を終結するようはたらきかけることです。

● 「あなたに出来る」と

地球大で考えよう 世界の至る所で小国に暮らす人々がより安全な世界を作り出すために熱心な努力を続けています。人々は、自分達を米ソの軍拡競争に巻き込んでいる基地を撤去し、艦船の入港を食止めることによってそれを実現しようとしています。ルーマニアの人々は、ソ連のSS 20ミサイルの国内配備を拒否しました。ニュージーランドの人々は港への核艦船の入港を禁止しました。

行動は足下から * オーストラリアが核戦争準備に組込まれている実態をもとと知ろう。より詳しい情報を知りたい人はP.N.D.に連絡下さい。* 友人、親戚、同僚と話合おう。軍拡競争の中のオーストラリア、そしてこの基地の役割について。* 国会議員や首相に手紙を書こう。軍拡競争の中のオーストラリアに

ついてあなたが抱く不安を彼等に知らせよう。

* P.N.D.に参加しよう。労力とお金をしてのキャンペーンによせてください。

● P.N.D.とは?

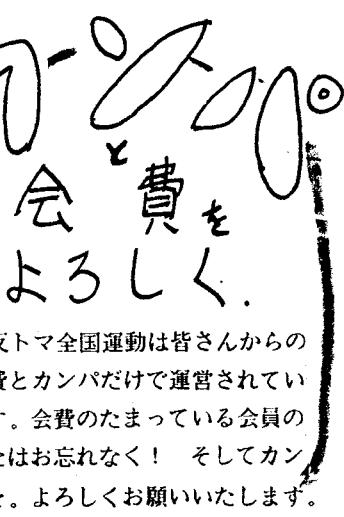
P.N.D.（核廃絶のための人々）は幅広い基盤を持った、自立的、無党派の組織です。賛同する個人、教会、商工組合、教育組織、学生、教授など様々なグループが平和と核廃絶という共通の目的で繋がって形作る連合体です。西オーストラリアでは千人以上の個人と、七十団体（五千五百人以上）が参加しています。

このキャンペーンについても「と」知りたい人、P.N.D.のメンバーになつてもよいと思うひとは下の用紙で申込んでください。（ア）

集部までお送り下さい。記事を書いてもらえて、それでも地方紙のスクラップなども大歓迎です。それから、きめ細かい編集のためにも、つとスタッフが必要です。首都圏に住んでいたりなどなたか、この「通信」の編集を手伝っていただけないでしょうか。（た）

■ 編集後記

横浜では早くもソメイヨシノの開花というニュースを聞きながら「後記」を書いています。全国の読者の皆さんのもわりではどんなふうに春の気配が広がっているのでしょうか。



● 反トマ全国運動は皆さんからの会費とカンパだけで運営されています。会費のたまっている会員のかたはお忘れなく！ そしてカンパを。よろしくお願ひいたします。

月刊反トマホーク通信

No. 17

* 発行 トマホークの配備を許すな全国運動

(東京都渋谷区渋谷二一五十九バル

青山五〇一トマ喰い虫社

603(四九八)六〇九五

* 編集 反トマホーク通信編集委員会

* 定価 100円(通信会員年間2000円)